

総合図書館を拠点とした子どもの読書活動支援について

前回部会（R3.6.24）での委員・事務局意見

1. 図書館を拠点とした学習活動支援について

- 学校教育の関係で主体的で、対話的で、深い学びといったことを重視する流れがあるが、学校だけではなく、図書館の果たす役割も非常に大きいと考える。そのようなところを充実、強化していただきたい。
- 学習室で大学のオンライン授業なども受けられるようにフリーWi-Fi サービスや、ゆったり閲覧できる座席など学習環境があるとよい。授業で学んだことをその場で調べられる利点もある。

2. ジュニア司書について

【課題1_子どもの成長過程、発達段階を踏まえた内容となっているか】

- ジュニア司書だけでなく、どのイベントでも小学生と一緒に中学生までというのは難しく、たいてい中学生の応募意欲が下がる。募集では中学生を外して、小学4～6年生もしくは3～6年生として、ジュニア司書活動への関心が続けば、中学生になっても活動を継続できる。
- 低学年の子にいきなり難しいことをさせるのではなく、できることを広げるように学年にあわせて段階的に育成し、中学生になっても続けられるといい。
- 最初から、小さい子にも全部把握させようとするには範囲が広すぎるが、異年齢で一緒にやるのであれば、この学年はこの範囲と段階的に作業を分けて、次の年にはあれができるようになるという長い目で見られるといい。
- 小さい子はお兄さん、お姉さんの姿を見習ってやることは好きなので、上の学年になればあれができるのだと思うと、低学年でもがんばってみようという気持ちになるかもしれない。続ければ最終的にはジュニアリーダー的になれる。

【課題2_子どもの関心事に応じた内容となっているか】

- 募集をする時に、講座内容にジュニア司書はイベントのお手伝いや書架整理などの活動もできることを入れた方がよい。本が好きで応募する子だけでなく、イベントのお手伝いが好きな子、ひたすら書架整理をやりたい子もいる。詳しい活動内容がわかれば、参加者が増えるのではないか。

【課題3_司書の業務を教えることに着目するか】

- ジュニア司書講座の趣旨は司書の業務を覚えることを目的とするのではなく、子どもに読書や図書館に来ることを楽しんでもらう子ども読書リーダーになってもらいたいと考える。参加が増えるように募集内容の工夫や、ジュニア司書認定者が継続して活動が定着させるためには、主催者側の図書館スタッフだけではなく、保護者や地域の大人の立場といった視点や意見を取り入れた事業企画も必要である。（事務局意見）

【課題4_ジュニア司書の名称に認知度はあるか】

- 全国的には「子ども司書」という名称の方が一般的であり、「子ども司書」は、子ども達の間形成や心の成長、子どもの読書リーダー育成といった子ども達がまわりの子どもを巻き込んで読書好きにする環境を作っていくことが目的となっている。寒川では小学生だけでなく中学生を加えたい意図から「ジュニア司書」にした経緯がある。第1回のジュニア

司書講座は、当初は十進分類法や図書館の業務全般など司書の仕事を教える内容が多かったが、参加した子ども達は興味を示し、認定式まで喜んで参加してくれた。寒川町の中で子ども読書活動を拡大していくきっかけとなることを願って始めていることから、今後も継続してほしい。(事務局意見)

- ジュニア司書という名前が聞きなれないところもあると思う。認知度が上がれば、学校外活動としての部活のように評価されれば参加の動機付けになるかもしれない。学校の協力も得られるように声をひろっていくことも必要。

3. 総合図書館『夏休み企画 児童読書推進事業』令和3年度実施状況について

【目的】夏休みに、主に小学生を対象にさまざまな読書推進事業を実施することにより、読書意欲の向上を図るとともに、図書館に来館するきっかけを作り、自主的な読書を促す。

【対象】小学生(事業内容によっては高校生までを含む)

【周知方法】①小学校に依頼

②広報さむかわ(7月号、8月号掲載)

③子ども生涯学習情報紙「すきっぷ」(R3夏号掲載)

④館内ポスター掲示

⑤寒川総合図書館ホームページ

⑥寒川総合図書館および北部分室、南部分室利用者端末

【事業内容】

(1) 企画展示「女性と子どもの戦争と平和」

日時：7月21日(水)～9月5日(日)

対象：小学生からおとな

実績：展示数193冊、貸出数175冊

(2) 企画展示「忘れられない1冊と出会う夏～新さむかわ子ども読書100選とおすすめ本～」

日時：7月21日(水)～9月5日(日)

対象：小学生から高校生

実績：展示数236冊、貸出数416冊

(3) **中止**講座「夏休み！宿題おたすけ調べ隊講座」

内容：図書館の本を使って調べ方の練習をし、調べたことをパンフレットに仕上げる。

日時：8月8日(金)9:30～12:00

対象：小学3～6年生(先着4人、町内在住在学優先)

場所：寒川総合図書館3階会議室

実績：緊急事態宣言発令のため中止

(4) **一部延期**講座「さむかわジュニア司書養成講座」

内容：図書館と図書館司書について学ぶ。講座終了後は、さむかわジュニア司書として図書館のイベントに参加することができる。任期は中学2年生の3月迄。

日時：全4回 7/23(金)7/29(木)8/4(水)8/6(金)10:00～11:00

対象：小学5年生から中学2年生(町内在住在学優先)4人

場所：寒川総合図書館3階会議室

実績：申込受付人数3人

第1回「図書館はどこなところ？」参加者2人

第2回「分類をおぼえよう」参加人数2人

※第3回、第4回は緊急事態宣言発令のため延期対応。

10月9日（土）第3回講座と選書（ブックキャラバン参加）、

10月31日（日）第4回講座と認定式

課題：応募者が定員に満たなかったことから、今後は学校への周知（ポスター掲示依頼）を広報掲載と同時期に行う。

どのような講座を行ってほしいか、参加しやすい講座名はどのようなものか等今回の参加者から具体的な意見を聞き取り、次回に繋げる。

★前回部会（R3.6.24）での意見も踏まえて、来年度の事業企画に反映させる

(5) 真夏の夜のおはなし会

内容：閉館後の図書館で、怖いおはなしを聞いて涼しくなりませんか？

（朗読、紙芝居、地域の民話を実施）

日時：7月31日（土）18:00～18:30

対象：小学生とその保護者10組

場所：寒川総合図書館1階

実績：参加人数10組（大人10人、子ども15人）

予約受付初日で満席となった。予約時に聞き取りしたところ、全員が寒川在住で、イベントを知ったきっかけはすきっぷ60%、広報さむかわ40%であり、両媒体がよく見られており、イベント情報への関心の高さがうかがえた。

当日は参加一組ずつ座席を振り分け、他家族と距離をとる方法で着席してもらった。プログラムは低学年向けには視覚的な紙芝居、中～高学年向けには情景を想像できる朗読、大人は地域の民話を楽しんでもらえるよう企画。修了後にお土産としてしおりを贈呈。アンケート結果は全員が「楽しかった」とし、おはなしがおもしろかった、また参加したい等の好評の意見が多かった。

(6) **中止**夏のスペシャルおはなし会

内容：すばなしや紙芝居など、ちょっぴりスペシャルなおはなし会です。

日時：8月21日（土）11:00～11:30

対象：小学生以下とその保護者先着7組

場所：寒川総合図書館3階会議室

実績：緊急事態宣言発令のため中止

(7) **中止**図書館・文書館体験ツアー

内容：普段は見られない図書館・文書館の裏側を体験できます。

日時：8月5日（木）8:30～11:00

対象：小学3～6年生（先着5人、町内在住在学優先）

場所：寒川総合図書館・寒川文書館

実績：緊急事態宣言発令のため中止

(8) わくわく読書マラソン（読書記録カード）

内容：わくわく読書マラソンカードに、読んだ本（マンガ以外）のタイトルを記録する。好きな本の傾向を把握したり、読み終えた本の記録を見て達成感を得るなどして次の読書意欲につなげる。

【参加方法】

- ① 「わくわく読書マラソンカード」を町内小学校の全児童分を7月初旬に図書館より各校に配布。カードは寒川総合図書館、寒川総合図書館北部分室・南部分室でも配布。
- ② 期間中に記録対象図書を読み、本のタイトルをカードに記録する。
- ③ 期間内に、寒川総合図書館3階事務室、または北部分室、南部分室にカードを持参し、1冊記録ごとに1個スタンプを押してもらう。
- ④ 10冊に達したら、カード裏の認定証に図書館で認定印を押印する。
- ⑤ 参加した町内在学児童には、9月中旬に各学校を通じて記念品を配付。(町内在学児童以外の参加者には、寒川総合図書館にて記念品を配付)

<感染症対策による例年との運用方法の相違点>

- スタンプは子どもが押すのではなくスタッフが押印
- 事務室への入室は1組までとし、順番待ちの方は廊下に待機
- 事務室でのわくわく読書マラソンカード完走認定後に読書通帳の手渡し説明も行っていたが、今回は1階カウンターでの受け取りを案内。

受付：7月21日(水)～8月31日(火)

対象：幼児から中学生

実績：参加人数321名

2019年度との比較…参加人数411名 ※2020年度はコロナのため中止

8月に緊急事態宣言が発令されたこともあり、2019年度の8割ほどの参加となった。夏休み初日から事務室に来る児童の姿が多々あったが、大人(保護者)一人が来るケースが前回よりも目立った。

(9) おすすめカード

内容：友だちに勧めたい本(マンガ以外)のタイトルなどを書いたカードを募集し、図書館に掲示して読書意欲の向上を図る。

【受付・掲示方法】

おすすめカードに友達に勧めたい本のタイトルなどを記入し、寒川総合図書館、北部分室、南部分室に提出する。ひとり何枚でも提出可能。掲示は、7月21日(水)より随時開始。

対象：小学生

提出期間：7月21日(水)～8月31日(火)

配布場所：寒川総合図書館、寒川総合図書館北部分室・南部分室

(町内在学児童には読書記録カードとセットで配付)

実績：参加人数89人

2019年度との比較…参加人数100名 ※2020年度はコロナのため中止

4. 社会教育委員として『子ども読書推進事業』への提案したいこと

町の総合計画、教育振興基本計画では、社会教育の振興を目指し、図書館活動の充実について、目標指標を設定しています。(次頁参照)

子ども読書推進についても、総合図書館での様々な事業、イベントは、町の計画を踏まえた上で、目標達成に向けた新たな取り組みや事業の見直しが必要です。社会教育委員として事業計画や実績などから感じること、拡大・強化した方が良いと感じること、新たに提案したいことなどを挙げていただき、次回部会で実現可否を探り、今後の事業展開に活かしていきたいと考えます。

寒川町の子ども達の読書習慣が定着を目指す町計画の目標指標（図書館関連項目の抜粋）

① 寒川総合計画 2040 第1次計画（令和3～6年度）

【施策名】社会教育の振興

【施策目標】町民が地域で学び、その成果がひとづくり、つながりづくり、まちづくりにいかされている。

【具体的な取組_事務事業】総合図書館運営事業

施策の目標指標	基準値	目標値			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人口1人あたりの貸出点数	令和元年度実績 4.0点	4.4点	4.6点	4.8点	5.0点

② 第2次寒川町教育振興基本計画 前期実施計画（令和3～6年度）

【基本目標】《社会教育》町民が地域で学び、その成果がひとづくり、つながりづくり、まちづくりに生かされている

【主な施策】図書館活動の充実

【事業名】総合図書館運営事業

【事業目標】・図書館が学びを支える情報拠点となり、地域での学習活動が充実し、町民の幸せと誇りを創出している。

・幼児期からの読書習慣が定着することで、心豊かな成長や自己実現を促している。

事業の目標指標	基準値	目標値			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
図書館利用登録者数	21,647人	22,000人	22,400人	22,800人	23,000人
子ども対象の利用促進事業の参加者数	2,107人	2,150人	2,200人	2,250人	2,300人

主な取り組み

取組名	取組目標	取組概要
図書館ボランティアの育成	町民が身につけた知識や経験が生かせるようボランティア活動の充実を図ります。	地域の読書活動推進の担い手として、子どもの読書活動や図書館サービスを支援するボランティアの育成を行います。
団体貸出事業、学校図書室との連携	子どもの読書活動を支援するため、学校と連携した取組を充実します。	学校と連携し、子どもの読書活動の重要性に関する普及啓発を通じ、子どもの読書活動を推進します。
地域の多様な主体との連携・共同	図書館が学習活動や情報発信の機能を高め、地域、学校、企業など多様な主体との連携を目指します。	地域の企業や団体など多様な主体と連携し、雑誌スポンサー制度等の地域に根ざした図書館活動の充実を図ります。
図書館講座の開催	図書館は町民の学びを支える施設として、町民の図書館利用促進のための取り組みを充実します。	町民の図書館利用促進を図るため、読書会、研究会、講演会、鑑賞会、映写会、講座等の実施。